

教育目標 「自ら きたえる」

意欲をもって学び続ける力・自分を豊かに表現する力・良好な人間関係を築く力



7/10(木)～11(金) 6年生 佐渡修学旅行



新潟市立関屋小学校 学校だより

しおない

令和七年七月二十二日

第370号

少年時代を楽しむ

校長 川又 健司

東日本大震災の直後ですから、もう十五年ほど前でしょうか。私は新潟市から文部科学省に派遣されて、一年間勤務してきました。一年の前半は幼児教育課、後半は教育課程課というところに勤務しました。

当時、幼児教育課は、文部科学省管轄の幼稚園と、厚生労働省管轄の保育園を、どうやって一体化するかが課題となっていました。難問を解決するため、当時の課長は厚生労働省から、いわゆるキャリア官僚が出身してきていました。東大法学部を卒業して厚生労働省に入ったXさんで、私と同年でした。

地方から派遣された私が、課長であるXさんと会話をする機会は、仕事の上では全くありませんでした。でも、Xさんは課で飲む機会があったりすると、

「おーい、川又さん、隣に来いよ。」と、よく近く呼んでくれました。

そこで同年の二人が話す内容といえば、決まって少年時代のことでした。仮面ライダーカードを集めるのに、夢中になったこと。毎週ドリフを見て、爆笑していたことなど、昭和の子供あるあるです。

「川又さん、昔はスポーツといえば野球だったけど、北海道(Xさん

の出身地)は、みんな巨人ファンだったよ。だって、北海道に球団はなかったし、たまに来るのは巨人の試合だけだったからね。」

そんな話を聞きながら、そういえば自分も、年に一回鳥屋野球場にやってくる南海ホークス(今のソフトバンク)の試合を見に行っていたっけ。そしてそこには必ず、水島新司がいたなあ、なんてことを思い出していました。

自分の人生とは接点がないと思っていたキャリア官僚との会話を通じて、私がふと思ったことは、

「少年時代なんて、案外とそんなに変わらないもんだなあ。」

ということでした。

横綱になった大の里も、新潟で過ごしていた頃の映像が出ると、かわい顔をしているじゃないですか。その頃、将来大横綱になると予想した人は、どれほどいたでしょうか。誰でも少年時代というのは、まだ何者にもなっていない時代です。でも、それは見方を変えれば、「何者にもなれる可能性」を秘めた時代とも言えます。

子供たちには少年時代の今を大いに楽しみながら、将来に夢を広げていってほしいと思っています。

～ 6年 修学旅行 7月10、11日 in 佐渡 ～



6年1組 K・T

僕が修学旅行で身につけたことは、人と交流する力です。特に生活班で、他のクラスの人と交流して仲良くすることができて良かったです。そして僕が感じた佐渡の魅力は、海産物です。特にぶりカツがすごく美味しかったです。修学旅行で、たくさんのことを学ぶことができました。



6年2組 Y・M

修学旅行を終えて成長したことは、あいさつや返事をしっかりとできるようになったことです。誰とでも仲良く過ごすこともできました。トキが目の前を歩いている姿を見たり、佐渡金山の資料館で本物の金を触ったりできて、佐渡の魅力を味わいました。みんなで作ったスローガンも達成できて良かったです。

～ 4年生 社会科見学～

4年生は7月10日に、社会科の学習で校外学習へ出かけました。亀田清掃センター、信濃川浄水場、中部下水処理所を見学しました。



【夏休みの予定】

<7月>

24日 夏休み開始

28日 東地区陸上記録会

<8月>

27日 夏休み最終日

～SNS 安全教室 7月16日～

県警少年課の樋口様からネットトラブルについて講演していただきました。4～6年生の子供たちは真剣に話を聴いていました。



【図書館開館日】

7月24日、30日、31日

8月6日、7日、22日

25日、27日

(24日のみ午前中)

※職員室脇の玄関から入ってください。